

1 ○ 受精卵移植 (ET) を活用した和牛増頭の取組

2

3 中丹家畜保健衛生所

4 ○岡本和久、井上徹夫

5 【はじめに】繁殖和牛農家の高齢化や後継者不足による農家数減少に伴い、中丹子牛せ  
6 り市（せり市）への上場頭数が年々減少する中、当所では管内の一繁殖和牛農家（成牛 60  
7 頭）における採胚と ET による和牛増頭の取組を支援しており、その概要を報告。【方法と  
8 結果】平成 22 年度から平成 30 年度までの 9 年間に繁殖和牛農家で飼養する黒毛和種延べ  
9 132 頭から 2,897 個（うち正常胚 1,598 個）の受精卵を採取。酪農家飼養の長期不受胎牛  
10 を主な対象として延べ 1,043 頭（新鮮 519 頭、凍結 524 頭）に移植し、415 頭（新鮮 215  
11 頭（受胎率 41.4%）、凍結 200 頭（受胎率 38.2%））が受胎。その結果、せり市の売買成立  
12 頭数 4,220 頭の 6%に当たる 260 頭（ET 産子上場頭数 923 頭のうち 28.2%）が上場され、  
13 せり市価格は去勢で 106%、雌で 108%と平均よりも高く販売。枝肉成績の追加調査(61 頭)  
14 では、平均枝肉重量 520.2kg(去勢 547.5kg、雌 497.0kg)、平均 BMS7.8(去勢 8.1、雌 7.6)  
15 で、府内成績(1,979 頭)の平均枝肉重量 500.9kg(去勢 524.8kg、雌 475.0kg)、平均 BMS7.1(去  
16 勢 7.2、雌 7.0)と比較して有意に高い(P<0.05)。平成 26 年度近畿東海北陸枝肉共進会では  
17 優秀賞第 2 席を獲得。【まとめ】ET を活用した和牛増頭の取組により、近年では本取組に  
18 よる ET 産子のせり市における売買成立頭数の 10%を占めており、上場頭数の維持と優れた  
19 肉質を有する京都生まれ京都市育ちの和牛生産に貢献。当所は今後も本取組を継続して支援。